

実践事例

1 実践の概要

(1) 取組みのねらい

「いじめ・不登校0」の継続をめざし、児童が楽しい学校生活を送れるよう、児童の実態把握に努め、早期発見と状況把握、対策と防止の推進に努めるようにする。

(2) 取組みの内容

- 「学校生活のきまり」を指導し、学校生活の基本となる生活習慣の徹底に努める。(担任による学級での指導)
- 配慮を要する児童(身体的・行動的)の把握に努め、全教職員間で情報の共有化、共通理解を図る。
- 毎月、生徒指導全体会を開き、児童の生活の様子や生徒指導上の問題を話し合い、共通理解を図り、対策を協議する。

2 実践の成果(態度・心情面やいじめの解決など)

- ① 学級担任が児童の生活の様子を注意深く見守り指導する中で、基本的な生活習慣をしっかりと身につけられるようしている。児童間のトラブルが発生した場合には、その都度、情報を聞き取りながら早期に解決するように心がけている。
- ② 朝や帰りの時間を利用しての指導、学級活動や道徳の時間での指導などを通して、思いやりの心や道徳的心情の育成に努め、いじめにつながる芽を早期につみ取るように心がけ、良好な友人関係を作られるようにしている。
- ③ 配慮を要する児童(身体的・行動的)について調査をし、全教職員間で情報を共有化し、学校全体がそれぞれの児童を温かく見守り、いじめやトラブルにつながらないようにしている。
- ④ 学級での生徒指導上の問題などを生徒指導全体会で話し合い、具体的な対策を協議し、早期の解決につなげている。『包み隠さず、抱え込まず…気軽に相談、早い解決』をモットーに、学校全体で取り組むようにしている。

3 取組みの評価(対応についての評価)

- 児童の学校における基本的な生活習慣を身につけさせるために、学級担任が児童の生活の様子を常に気を配るようになってきた。いじめやトラブルにならないように、きめ細かな指導に心がけるようになってきた。
- 児童に関する情報の共有化を図ることにより、教師が一人ひとりの児童に目を向け児童理解を深めている。自分の学級だけでなく、学校全体の児童理解につながってきている。
- いじめやその他の生徒指導上の問題に対する学校全体での取り組みが、様々な問題行動の未然防止や適切な対応につながっており、今現在「いじめ・不登校0」の継続中である。

4 実践に関する資料（学習カード等）

○ いじめに気づくチェックリスト(参考資料)

いじめに気づくチェックリスト・1

- 最近、よくものをなくすようになった。
学校でものを隠されたり、壊されたりしている可能性があります。なくした理由を曖昧にしか言わないことが多い場合は、要注意です。
- 学校のノートや教科書をみせてがらない。
教科書に書き込まれたり、ノートを壊されているかもしれません。ノートや教科書は全科目、あるいは何冊かまとめて書き込まれていることもあります。
- 親の前で宿題をやろうとしない。
プリントなども書き込まれたり、壊されたものをテープでつなぎ合わせたりしているの、親に見られまいと、見えないところで宿題をやろうとします。
- お金の要求が増えた。あるいは親の財布からお金を持ち出す。
クラスメイトなどから、強制的にお金を要求されている可能性があります。
- 学校行事にこないでほしいと言う。
加害者の子供は、いじめている子の親が学校に来ることを避けたいため、事前に「親を来させな」とプレッシャーをかけている場合があります。
- すぐに自分の非を認め、謝るようになった。
以前なら謝らずに「仕方ないじゃん」「うるさいなあ」などと聞き流していたことを、「ごめんなさい」とすぐに謝るようになったら、要注意です。感じたいことがあり、それ以上言葉されたくないの、すぐに謝ったりします。さらに言えば、いじめの被害者になったことで、反動的に謝る面がついてしまっているのです。
- 学校のプリント、連絡帳などを出さなくなった。
プリントを壊られたり、連絡帳に書き込まれさせたりする可能性があります。
- ぼーっとしていることが増えた。何もしていない時間が多い。
いじめを受けている子どもには、全般的な意欲の低下、気分落ち込みによって、何もする気になれないという精神状態になることが多く見られます。

いじめに気づくチェックリスト・2

- 無理に明るく振る舞っているように見える。
「元気がない」と思われると、腹にいじめを返されると思っているの、そう思われないよう、明るく振る舞いますが、どうしても無理が出てしまいます。
- 学校のことを尋ねると、「別に」「普通」など、具体的に答えない。
本当は、「いじめ」のつらさを話したいのですが、話せずに、「別に」などと答えます。また、加害者の中で多少とも罪悪感を抱いている子にも共通する傾向です。
- 学校のことを詳しく具体的に聞こうとすると、怒る。
聞かれたくない、聞かれると困る。だから詳しく聞かれると「もういいじゃん」「うるさいな」などと返す終わらせようとする。いじめのことを話しているのは自分なのに、気づいてくれない腹に腹が立っています。
- 話題に友達の名前が出てこない。
腹に学校で楽しく過ごしているように話していても、具体的に一緒に過ごしている友達の名前がなかなか出てこない場合、教室で孤立している可能性があります。
- 学校に関する愚痴や不満を書かない。
「授業がつまらない」「宿題がたくさん出て大変」「先生が怖い」など、以前は口にしていたことを書かなくなることがあります。いじめを受けている子は、いじめのことで腹がいっぱいになり、かえって学校への不満を書かなくなることがあります。
- 保護者会、個人面談で何を話したかを過剰に気にする。
は加害者にも共通する特徴です。加害者も被害者も発見を恐れますから、保護者会、個人面談の場で担任からいじめについて話があったのではと心配し、内容を気にします。
- 寝つきが悪い。悪夢を見ているようで夜中に起きる。
いじめが原因による「過覚醒」による不眠や、いじめのことを思い出して眠れない「入眠不安」の場合もあります。睡眠状態には特に気をつけてあげてください。
- 倦怠感、疲労、意欲の低下。
初期状態です。特に、いつも疲れているように見える。ため息が多くなったなどが見られたら、精神状態はかなり落ち込んでいます。

いじめに気づくチェックリスト・3

- 原因不明の頭痛、腹痛、吐き気、意欲低下、嘔吐、などの身体症状。
要注意です。まずは病院に行って身体的なチェックを行い、原因が分からなければ児童相談所や心療内科で受診してみましょう。本人も、身体のことなら納得するはずですが。
- 何に対しても投げやり。
日々のいじめが何ら改善されない、被害者は無力感を抱くようになります。「学習性無力感」と呼ばれます。「どうせ何をやっても無駄」という気持ちから自暴自棄になります。
- 以前は夢中で楽しんでいたゲームなどをあまりやらなくなった。
やっても楽しめない場合もあります。
- 理由のないイライラ。
落ち込みだけでなく、些細なことにいらだったり、八つ当たりするようになるのは、いじめによるストレスです。特に朝の、動物、弟や妹に向けられます。
- ちょっとした音に敏感になった。
いじめられている子は精神的に常に緊張し、過覚醒の状態にあります。自分が次に何をされるのか怯えているからです。過敏になり、物音などに敏感になります。
- 身体を見せがらない。一緒に入浴したがる。
見えないところに傷をさせられているかもしれません。年齢にもよりますが、できるだけ、一緒に入浴する機会を作りましょう。
- 衣服、制服、靴などを、親の知らないところで自分で洗う。
洋服や靴を汚されたり、怪我をさせられて血がついてしまうと、被害者はいじめを隠蔽するために、腹に気づかれないように自分で洗います。
- 友人からの電話に「どきっ」とした様子を見せる。
被害者にとってはクラスメイト全員が加害者なので、電話が楽しい内容になるはずがありません。かかってきてほしくないという気持ちから、敏感になります。
- 急に今までと違う子とつきあうようになった。(不自然な友人関係)
加害者にも共通するチェック項目です。以前つきあっていた友人とつきあうようになった、しかもその友人は、大人から見ると明らかに上下関係があったり、絶対に仲良くならないであろう子同士であった場合は、金銭要求のターゲットになっていた、いじめの被害にあっていいる可能性があります。

いじめに気づくチェックリスト・4

- 以前では考えられないような非行行動の出現。(万引きなど)
脅されている、強要されている可能性があります。
- 外に出たがらない。外に出た時に周囲を気にしている。
外に出れば加害者に会うかもしれない、という怯えです。概と一時的な外出も、いつ加害者に出会ってしまうかと怯える気持ちは同じです。
- 金遣いが荒くなった。
お金の要求、持ち出しがなくなると、お小遣いをあげるとすぐに使ってしまう、なども、金銭要求をされている可能性があります。また、考えられないお金を持っている、妙に閉鎖的がよい、というのは金銭要求をしている側、加害者の特徴です。
- 成績の低下。
授業中もいじめを受けているため、集中できず、成績が当然低下し始めます。
- もの忘れがひどくなった。
いじめのことが頭から離れず、過度に緊張している状態なので注意力も落ちています。また外傷体験を繰り返している子どもは、心が壊れてしまわないために、記憶を失う、というメカニズムが働き出す場合があります。周囲からはただのもの忘れに見える。
- 自傷行為。(リストカットなど)
いじめが毎日続けば、死にたいという気持ちも抱いても不思議はありません。その気持ちが自傷行為として現れる場合があります。リストカットの傷、腹に刺を打ちつける、手を打ちつける、などです。リストカットなどは、絶対にしからず、原因を話したがるようであれば、ぜひ精神科や心療内科を利用してください。
- 「死」をほのめかすようなメモ、日記。
腹には見えないように隠していると思いますが、何らかの形でどこかに、自分の苦しさを書き留めているかもしれません。ノートや日記ばかりではなく、廊下や机の隅など、ちょっとしたところに気持ちを書き込んでいる場合もあります。万が一、そのようなメッセージを見つけたら、「最近、身体の不調が重そうだな」などと別の理由をつけて、心療内科や児童相談所に行くように誘ってみてください。